

明  
快  
新  
聞

教えることと  
出来ること

の弱さや弱点のポイントに気付くことが出来ていないと感じることが多く、もっと早い時期にそれに気がつくことが出来れば、そしてそれを乗り越えられれば、自分に自信を持てるようになるはずです。そして、自分に自信を持つことが出来れば、結果が伴ってくるのだと思います。やはり、そういう気持ち을教える育むことこそが「教育」なのだと自分は思っています。

編集者の  
独り言



今年も、地元の中学校の卒業式に参加してきた。これまで、生真面目に受付を通して参加しようとしてきたのだが、毎年断られ続けていたので、今年は受付を通らず、シャラ〜ツと直接体育館へ入っていったところ、特に何も無く参加出来た。内心、「こんなことなら、これまでもそうすればよかった」と思いつつ、

## A cartoon illustration of a school building with a clock tower. In the foreground, a girl with a red bow and a boy are both smiling and reading orange books. Red musical notes float around them, suggesting they are singing or happy.

ちよつと  
寄り道


本も漫画も、世の中に形として出ている某かは、それに耐えうるだけのものを持ってそこに存在している。だから、それなりに何か力を持っているのだと思う。だから、ふとした瞬間に自分に力を与えてくれたりする。誰もがそういうときを経験したことがあるはずだ。CMでつぶやかれた一言に、心を救われたり、映画のシーンに勇気をもらったり…。昨日もそんな瞬間があった。

卒業式を最初から最後まで楽しんだ。内容的には個人的に、校長先生のお話の中の「挨拶の大切さ」に関して、非常に共感出来るものがあった。やはり、挨拶は人の心の文化を拡げる第一歩だと思う。

ただ、式次第の中の「区歌斉唱」というのがいつも引つかかる。国歌↓校歌の流れはよいとして、区歌ってそんなに大事なのだろうか？自分はこの区にかなり長い間住んでいるが、全然知らなかった。若干長めの式を、あまり意味があるとは思えない歌を歌うことで、さらに延ばさなくともよいのに：なんて思った次第だ。

「生きていたら、辛いことも、悲しいこともある。でも、それに負けないくらい楽しいこともあったはずだ。だから、生きていけるんだ」

人は誰も、辛いことや悲しいことがあると、それまでの楽しかったことなどを忘れてしまいがちだが、そんなときこそ、その裏側を思い出す余裕というか、エネルギーのようなものを持てるといいんじゃないか。そんなことを想わせる言葉だった。自分の人生が全て、辛さや悲しみだけでできているなんて人はまずいない。だからそのプラスの部分をは忘れてはいけない。そのプラスの部分、人を生かしているはずだから。そう強く思える言葉だった。



皆様に元気をチャージ

CHARGE

〒166-0003  
東京都杉並区高円寺南4丁目  
21-2 スノーポート山崎1F  
電話 & FAX : 03-6794-8229  
<http://www.fujiqra.com>

〒166-0001 東京都杉並区阿佐谷北2-11-2 1F  
営業時間：18時～26時 定休日：毎週火曜日

オススメは  
「純けい」！  
しっかりとした  
鳥の旨味が  
堪りません！

＼ご予約お待ちしております！／

〒164-0001 東京都中野区中野5-54-3 藤田ビル1F  
営業時間：平日17時～23:30時 祝日17時～23:00時  
月曜日（月曜が祝日の場合は営業）